

初めて支那全體をば北方民族として統轄したところの蒙古即ち元であるとか、更に滿洲から起つたところの女眞種族の滿洲即ち清朝であるとか云ふやうに、隨分その數は多數に上るのであります、ところでそれ等の朝廷がどう云ふやうな態度を支那の文明に對してとつたかと云ふと、これは申す迄もなく支那に入つて見ると支那の文明に同化されて、武力では支那を従へた者が暫く經つと全く支那文化の同化を受けて、その國民性も失つてしまひ殆ど支那人と異なる所ないやうな有様になつて、元來持つて居つた武力を失つて極く弱いシビライズされた人間になつてしまふ、さうして武力が無くなると共に今度は民族的の反抗を受けて、漢民族のために征服されてしまふ、支那に君臨した時間に長短の差こそあれ遂には皆漢人のために迫ひ退けられ、或は征服さるゝと云ふ結果を見ることになつたのは同一である。此ことは先に申しました様に從來から誰もが申して居ること、決して新しいことでも何でも無い。しかし念の爲にこれについて少しく述べてみよう。

## 二

一體、魏と云ふのは御承知のやうに鮮卑と云ふ種族から起つたので、根本を尋ねれば滿洲の遼江の地方に居つた民族で、それが盛樂即ち唯今の歸化城の地方に據つて勢力を作り、更に山西省の大同に乗出して來て、そこに都を定め其後更に河南の洛陽に都を還した。この魏の勢力を始めて支那に及ぼしたのは道武帝と云ふ天子の時であり、その天子の時に既に支那の文化を魏の方に導き入れ、本來の文化を或る程度まで支那化したといはれて居るのであります、更に五世紀の中頃になりますと有名な太武帝といふ天子が生まれて、當時漸く流行の勢力のあつた道